



# 徳山大学 校友会誌

## 第11号

平成元年12月20日

発行所 徳山大学校友会  
〒745 山口県徳山市久米  
徳山大学学生部内  
TEL 0834 (28) 0411 (代)

発行責任者 福原良裕  
編集発行人 中村道陽

学校法人徳山教育財団（徳山大学・徳山女子短期大学）

### 理事長 高村坂彦先生ご逝去される



平成元年十月七日、本大学理事長であられる高村坂彦先生が急逝された。  
先生は、前日の十月六日の午前中には、徳山市の産業祭の開会式に出席され、お元気な姿を見せておられた。同日夕刻、同産業祭のレセプションに出席するため自宅を出発されたが、車内で気分を悪くされそのまま緊急入院となった。この緊急事態に駆けつけた大学関係者をはじめ多くの方々と、一時

諸症好転の兆しに期待を寄せた。しかしそれも空しく、七日午後四時四十五分急性心不全で先生はお亡くなりになられた。  
十一月十日、徳山市・徳山教育財団合同葬が徳山市体育館でしめやかに行われ、河本元国務大臣をはじめ大学関係者、学生、一般市民等千五百人が参列し最後のお別れをした。先生の御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

### 追悼の言葉

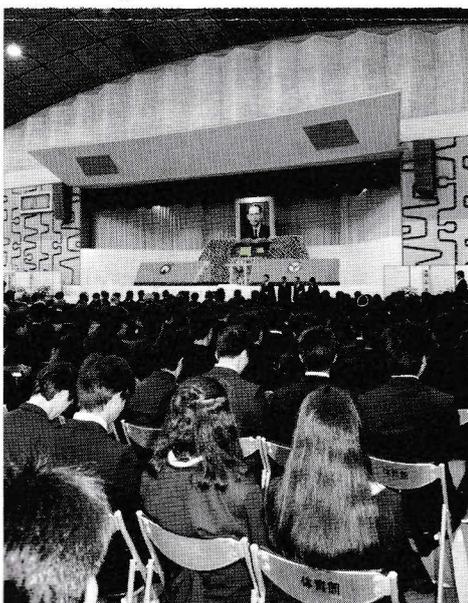
校友会会長 福原良裕

「徳山大学小なりと言えども誓って日本の大学の幹とならん」高村先生のお言葉の中で最も私の心に残っている言葉であります。  
本学の創設者であり、建学理念そのものと言うべき理事長先生のご逝去の報に、本会を代表し心より哀悼の意を表します。

先生は、昭和36年6月「宰相になって国を滅すより、首長となって国を興す」とのスローガンを掲げ、また徳山市に高等教育機関の設置を公約に、第七代市長に就任以後4期（12年）に渡り日本一の理想都市を建設すべく行政に手腕され今日の徳山市発展の礎とられました。また周南団地の背後に拓けた久米丘陵地に偉容を見せる徳山大学及び徳山高専の設立は、市長就任以来、文教政策の重視と文教都市の建設を唱えてこられた先生の、「大いなる文化遺産」であります。先生は、明治35年光市の

農家の四男として生まれ、独学で高等文官試験に合格され、内務省国會議員、市長、大学学長、理事長と様々な職務に、至誠を持って全力投球されてこられました。内務省時代は、近衛首相の秘書官として戦争の回避と終結に一命を賭けられ、政治家としては、「一本のローソク」を信条とされ国家平和に情熱を燃やされました。政治家であり、教育者であられる先生が最後に、「教育こそ国づくりの基礎である」と最も愛着を持って築かれたのが我が徳山大学なのであります。本学も平成三年ではや開学二十周年を迎えます。

先生が逝かれた今、会員一人一人が先生のご意志の一端でも受け継ぎ自己研鑽され、母校発展に寄与されることをお願いし、先生のやすらかなご冥福をこゝにお祈りいたします。



徳山市・徳山市教育財団合同葬 11, 10

# キャンパスだより 学食前改装

大学も年々きれいに整備されてきているが、学食前は花壇・ベンチ・オブジェ風の構築物がなされ、学生の集いの場となっている。

また短大は、来年より定員増(百名→百五十名)のため五階を増設、さらに研究室、ラウンジ、エレベーターなど増設する工事に入っており、来年三月竣工の予定である。



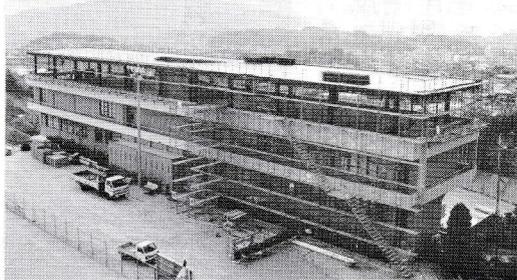
〈大 学 祭〉

今年も大学祭りでも多くの人に足を運んでもらうが十一月三日、おうと努力していた。四日、五日の三日間開催された。演奏団演奏会、フォークソングコンクール、限界チャレンジ、ねえたポプラ祭は、るとんもどき団、ミスコンテスト「みんなの季節」それに、ものまねの清水アキラのショーなどがあり、多くの市民でにぎわった。最終日、小雨の降る中、ファイヤーストーム点火、青春の炎を囲んだ。

時代を変えるのは常に青春で老いた常識より遥かに強くたとえば嵐に呑み込まれても歴史はそれを  
見逃がさないだろう  
「街へ」 吉田拓郎



〈学 食 前〉



〈短 大〉

## 会員からのメッセージ 友だちの輪 Part 2

各地で活躍されている、会員諸氏の近況アンケート第二回です。これを機会に、旧交を温めていただければと思っています。アンケートにご協力下さいました方に心より感謝申し上げます。

### アンケートの見方

- ① 名前
- ② 何期卒
- ③ 現住所
- ④ 勤務先
- ⑤ 趣味
- ⑥ 大学時代一番印象に残っていること
- ⑦ 友人へのメッセージ
- ⑧ 近況

### ① 松原 幸恵 (旧姓国重)

- ③ 3期
- ④ 国重米麦
- ⑤ 下松市大海町西
- ⑥ 読書、ドライブ
- ⑦ お金を使わないでよく遊んだこと。
- ⑧ 健康に気をつけてがんばりましょう。今度、子供を連れて、おじさんおばさんの同窓会をしたいと思います。

### ⑧ 今本 康徳

- ② 12期
- ③ 防府警察署刑事課捜査一係

恵まれ、続けて三人ということで少々疲れきみです。でもできればあと一人女の子がほしいと思います。



### ① 桑原 千代美 (旧姓谷口)

- ② 1期
- ③ 主婦
- ④ 徳山市大字久米三五一二〇
- ⑤ 編み物
- ⑥ 先輩が一人もない大学でわからないもの同志協力し合い行なったポプラ祭。
- ⑦ 1期生の女性の皆さん、お元気ですか! この冬会って、早く過ぎ去った時間を止めてみませんか。
- ⑧ 千葉から徳山に帰って来て二年半、専業主婦で忙しく過ごしています。

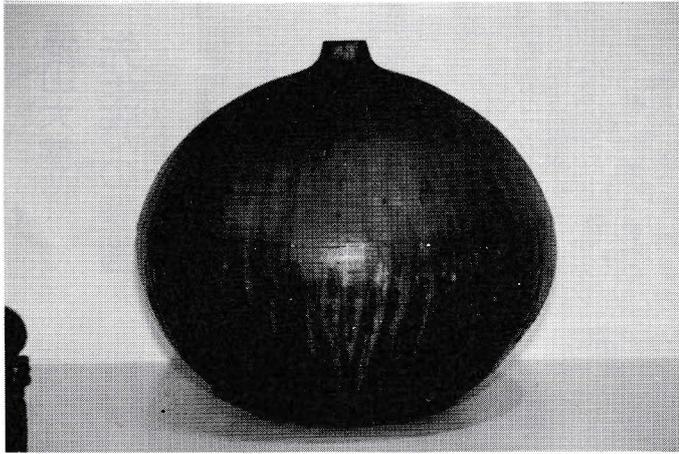


### ① 今本 康徳

- ② 12期
- ③ 防府警察署刑事課捜査一係



- ④ 防府市大字江泊四七八 たちはな荘
- ⑤ 名画観賞
- ⑥ 文化体育連合会での活動。教育研究会でのクラブ活動はもとよりオリゼミ、インキャン、フレッシュユマニキャン、六月祭、体育祭、萩往環踏破大学祭、コンパ寒行、先輩同輩後輩との語らいなど文体で活動させていたおかげで素晴らしい学生生活を送ることができました。
- ⑦ ようやく結婚いたしました、身辺も落ち着いてきましたので、近くに来られた時には遊びに来て下さい。
- ⑧ 学生時代に描いた理想と夢と現実社会の差に時々立ちつくしてしまうような思いにかられる時もあります。元気が取り得の私です。前向きに頑張っていきたいと思っています。



備前焼作家

中尾 晃氏

(本学卒業生)

作陶展開催される



〈中尾 晃氏〉

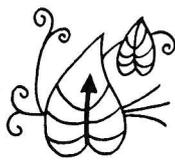
本学卒業生(第五期)である、備前焼奈義法然窯(なぎほうねんがま)中尾晃さんの作品展が、十一月三日から六日間徳山市内の百貨店で開催された。中尾さんは、岡山県出身、昭和五十年徳山大学に入学、在学中は芸術部に所属し、切絵や日本画を描いていた。この当時の切絵は現在山中鉄三先生の研究室に残されている。昭和五十四年大学卒業と同時に陶芸家としての修行に入り、名門の窯元、木村喜十郎友敬にて作陶し、昭和五十九年作家として独立。奈義町長の命名で「奈義法然窯」と称す。ロゴロ目を生かしヘラ目を大担に、造形には躍動感に溢れるものが多いと言われる。修業中、岡山県美展に初入選以後三回入選、昭和六十三年朝日陶芸展で特別賞(川崎記念)を受賞した。また同年、備前焼と中国宜興県窯元友好親善使節として訪中した。作陶展は年二回、関東、関西方面で行われている。徳山では一昨年に続いて二回目である。今回の作陶展も盛況裡の内に行われた。中尾さんは今後も定期的に作品展を行いたいと話された。また二十周年には、作品を寄贈したいということでした。中尾さんの今後ますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

- ① 上田 健二  
14期  
紳士服のはるやま高松店
- ② 香川県高松市屋島西町
- ③ 一九四六一一ヴァンペール
- ④ 屋島三〇一
- ⑤ テニス 軽スポーツ
- ⑥ 苦しくて楽しかったクラブ
- ⑦ (少林寺拳法部)
- ⑧ はるやまに入りたい人、話を聞きたい人いつでも話してきて下さい。



- ① 大川 和子  
1期  
アトリエかずこ美容室(自営)
- ② 山口県吉敷郡小郡町
- ③ 読書・旅行
- ④ 女子学生があまりにも少なかったこと。
- ⑤ 社会に出てなかなか会える機会がないので残念です。
- ⑥ どこかで会ったら「元氣」と声をかけてほしいなア!
- ⑦ 早いもので美容室を自分ではじめて、十年が過ぎました。落ちこんだりしながらまた自分の甘さに思い知らされながらも、何とか歩いております。

- ① 桑原 俊彦  
14期  
綱はるやまチェーン大分店
- ② 大分県大分市萩原二一八一
- ③ 二七 レジテンス大分A一〇一
- ④ スポーツならなんでも!
- ⑤ クラブ活動
- ⑥ 田村恭一先輩お元気ですか。いつか遊びに行きます。
- ⑦
- ⑧



- ① 尾村 徳彦  
11期  
広島県東広島市西条朝日町七一六
- ② 尾村米穀店(自営)
- ③ ゴルフ
- ④ 栄光のヨット部でさわやかな汗をかき、夕陽に向ってセILINGしたこと。
- ⑤ みんな頑張っちゃうのかい!
- ⑥ 最近、東広島では、米騒動が起こりました。みなさんも米不足に注意して、今のうちにしっかりとお米を食べましょう。お米は日本の文化です。

- ① 守田 文男  
7期  
綱 JUKI 徳山支店
- ② 徳山市周陽一丁目
- ③ ゴルフ、ウインドサーフィン、スキー、放浪の旅(今まで、日本→ハワイヨット横断、アメリカ大陸横断)
- ④ クラブ設立のこと。
- ⑤ はじめての試合で遠征した際、宿舎がなく、結局公民館に泊まることになった
- ⑥ 何せ変り者が多く、車のトランクから何を持ってきたのかと思うと、自宅から布団一式持ってきた者がいた。大威張りでは彼は畳の上に布団をひいて、自分のスペースを確保した方がいいが、よく聞くと前日この部屋で葬儀があったということ、飛び起きて、一年生をそこに寝かせた。などなどクラブ創立時にはエピソードがつきなかった。
- ⑦ ロス、シカゴ、ニューヨークへ三年アメリカの全土を歩き、東京へもどつてから北朝鮮、中国、ベトナム、タイ、香港、ロシアと仕事をし、ようやく卒業以来七年振り徳山へもどつてきました。お時間のある時にはお立寄り下さい。



## 徳山大学 先生方の受賞

- 脇 英夫先生 (現秋女子短期大学教授)
- 大西昭生先生 (教授)
- 兼重宗和先生 (助教)
- 富吉繁貴先生 (講師)
- 第十三回「石油文化賞」受賞
- 協同研究による「徳山海運燃料廠史」が受賞対象となり、大へん高い評価を受けられました。
- 播磨定男先生 (教授)
- 「光市教育会選奨」受賞
- 光市の文化行政の振興に寄与されたということで受賞されました。
- 寺田一薫先生 (講師)
- 「道路と交通」論文賞受賞
- 雑誌「高速道路と自動車」に発表された、「研究論文」「都市間バスをめぐる政策対応」論文賞を受けられました。

## ヨット部創立10周年記念パーティ 開催される

平成元年五月五日、徳山大学ヨット部の創立十周年記念パーティが徳山市内のホテルで行われ、現役及びOB並びにその家族らが参集し盛大に行われた。

ヨット部は昭和五十四年に二年生三年生の同志十一人で同好会として発足、昭和五十七年狭間万弘主将(第九期卒、現在御伊藤園神

戸支店勤務)の時ヨット部に昇格、昭和六十年には、OB会徳帆会を足させた。OBは関東から九州まで連なり、年一回の定期総会も行われ相互親睦並びに現役部員への援助など行っている。

各地区で、OBの小さな集まりでも行われたら、きっと楽しいのではないだろうか。



## 昭和六十三年 度決算 報告

昭和六十三年年度決算並びに、平成元年度予算のご報告を左記のとおり致します。

### 昭和63年度 決算

収入の部		項目	予算額	決算額
前期繰越金		前期繰越金	1,591,710	1,591,710
会費	会費	15期生入会費	6,810,000	6,990,000
		追徴会費	6,750,000	6,990,000
		推薦会費	45,000	0
		特別会計繰入金	15,000	0
特別会計繰入金		特別会計繰入金	0	0
雑収入		雑収入	301,000	177,286
		雑収入	300,000	175,780
		雑収入	1,000	1,506
事業積立基金取崩し		事業積立基金取崩し	0	0
計		計	8,702,710	8,758,996

### 支出の部

科目	項目	予算額	決算額
会費運営費	会費運営費	2,934,000	2,101,452
	備品費	50,000	0
	備品費	400,000	296,822
	備品費	700,000	586,645
	備品費	300,000	183,315
	備品費	100,000	213,010
	備品費	50,000	34,000
	備品費	1,000	0
	備品費	100,000	0
	備品費	400,000	112,620
	備品費	583,000	453,600
備品費	250,000	221,440	
部費	部費	2,765,500	1,506,000
企画費	企画費	1,075,500	983,000
企画費	企画費	440,000	128,000
企画費	企画費	1,250,000	395,000
奨学金	奨学金	148,000	148,000
基金	基金	2,500,000	4,300,000
予備費	予備費	355,210	0
繰越金	繰越金	0	703,544
計	計	8,702,710	8,758,996

### 平成元年度 予算

収入の部		項目	予算額
前期繰越金		前期繰越金	703,544
会費	会費	第16期生入会費	2,300,000
		第16期生入会費	4,600,000
		追徴会費	30,000
		推薦会費	30,000
雑収入		雑収入	201,000
		雑収入	1,000
計		計	7,864,544

### 支出の部

科目	項目	予算額
会務運営費	備品費	50,000
	備品費	400,000
	備品費	750,000
	備品費	50,000
	備品費	300,000
	備品費	250,000
	備品費	50,000
	備品費	1,000
	備品費	100,000
	備品費	500,000
	備品費	500,000
部費	部費	421,000
企画費	企画費	452,000
企画費	企画費	1,050,000
奨学金	奨学金	0
基金	基金	2,000,000
予備費	予備費	390,544
計	計	7,864,544

## 支部連絡先

(本部)  
会長 福原 良裕 (一期)

〒七四五  
徳山市夜市五七八  
瓦(〇八三四)六三―四三一五

(山口県東部支部)  
支部長 古谷 幸男 (七期)

〒七四五―〇五  
徳山市中須南一二四  
瓦(〇八三四)八九―〇三〇三

(広島支部)  
支部長 長谷川 洋 (二期)

〒七三〇  
広島市西区上天満町二一六五〇  
瓦(〇八二)二九四―五二二七

(関東支部)  
支部長代行 中村 厚彦 (二期)

〒一〇四  
東京都品川区東品川三丁目16B  
東品川ハイツ二〇三号  
瓦(〇三)四七四―八三三七

## 編集後記

校友会誌第十一号発行、大変遅くなりまして申し訳ございませんでした。ご協力下さいました皆様方に心より感謝申し上げます。さて、大学では今年も推薦入試が行われ、千五百名の受験者があり、五倍強の競争率となりました。また、新学部構想も具体的に始動しはじめました。大学、学生、OB、さらには地域一体で二十周年を迎えたいものです。